

おめでとうござります!!



祝「みやぎSDGsアンバサダー」認定! 「わたしのSDGs活動宣言」Vol.41

みやぎSDGs Farm



みやぎSDGs Farm

国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」を軸に企業や個人が連携し、より豊かな地域づくりを目指す取り組み「みやぎSDGs Farm」の基幹プログラムです。SDGs活動を推進する人材「みやぎSDGsアンバサダー」を養成するなど、2021年から河北新報社が運営しています。



詳しくはこちらから

賛同企業
募集中!!

[申し込み・問い合わせ]
河北新報社営業局
TEL. 022-211-1318
koukoku@po.kahoku.co.jp

コロナ禍を経て、「SDGs」はより身近な行動や言葉として浸透しました。フードドライブや、コンビニでの「手前取り」といった行動が、いつの間にか生活に溶け込んでいます。その中で、私が注目するのは「地産」の概念です。



昨年、私は生まれ育った関東を離れ、宮城に移住しました。この地で驚いたのは、スーパーの充実した地産品コーナーでした。宮城県産の農産物・海産物が豊富に並び、光景は、地産地消が進んでいる証だと驚嘆しました。また、芋煮会のシーズンにスーパーが鍋を貸し出す光景は、文化と食材が一体となった、まさに地産地消の素晴らしい象徴です。

「SDGs活動」といえばなにかプロジェクトや大きいことを成し遂げなければならぬというイメージを持っていました。しかしこれまでの学内活動やこのSDGs塾を通して一学生の私でもできることは多くあると、理解を深めることができました。



企業の方々が多く参加しており、そこで実行しているものの中でも身近に感じたのは印刷物の削減です。これは教育の場でもできることで、デジタル化を進めていくことで資源保護になり、質の高い教育、より多くの人への機会提供につながっていくと考えます。

普段から意識していることは「食材を無



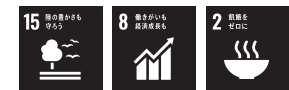
「何でも自分ごと」に。みやぎSDGs塾に参加して最も心を打たれた言葉です。林業に携わる方から現状を現地で直接つかがったり、他の会社の方々と意見を交わしたり、それぞれの取り組みを掘り下げて考えることができました。SDGsは特別な誰かが進めるものではなく、身近な課題に目を向け、自分ごととして考えることから始まるのだと実感しました。

私は松島蒲鉾本舗の広報担当として、SNSの発信に加え、県内の小学生向けの工場見学や出前授業に携わっています。これらの食育活動は地域貢献を目的としていますが、同時に私自身がSDGsについて考え、学ぶ機会にもなっています。子どもた

「地産」から始まる持続可能な社会

国分東北 高本和樹さん

みやぎSDGs塾での南三陸町の訪問は、この「地産」の可能性をさらに深く教えてくれました。南三陸杉が間伐・加工され、そして有名建築物に使われるまでの過程を知り、宮城の地産品が広範囲な分野で活用されていることに気づきました。フードロス削減、地産地消、南三陸杉の活用といった取り組みは、コロナ禍を経てその重要性を改めて認識したSDGs達成に向けた身近な実践例です。SDGs先進県に移住した1人として、身近で出来ることから、SDGs塾でつながった輪を生かし、南三陸のような地域と企業が連携した、宮城全体でのSDGsの取組にもチャレンジします。



できることから始めよう

宮城大学 鈴木安純さん

駄にしない」ということです。進学のために一人暮らしを始めたばかりの頃は、買いだめを意識しすぎて食材を使いきれず廃棄することがしばしばありました。大学では食品について学び、自分が想像していたよりもフードロス問題は深刻だということ意識するようになり、絶対に使いきれぬ量だけ購入したり、便利な保存方法を調べてロスを削減しました。現代で一番課題になっていることは飲食店でのフードロスだと考えています。食べ残しを持ち帰るシステムを行っている企業もあるため改善策は日々検討されているとは思いますが、まずは個人の意識が大切だと考えます。



「何でも自分ごと」に。食育とSDGs

松島蒲鉾本舗 吉松智代さん

ちと接していると、彼らの方がSDGsについて詳しく学んでおり、未来に向けて真剣に考えていることに気づかれます。「この使い方はもったいない」「使わない食材はどうするのか」「魚が獲れなくなったらどうなるのか」などの声を聞かされた時に私自身はもっと考えられます。食育の視点とSDGsには多くの共通点があります。食べ物を大切にすること、地域の食文化に関心を持つこと、そして未来の環境を守ること。子どもたちのなかかわりを通じて学ぶ姿勢を忘れず、「自分ごと」としてSDGsに取り組みでいきたいと思えます。

